

## 伊達市の概要

### 1. 自然的条件

#### 位置及び気候

本市は、北海道中央南西部、道都札幌市と函館市の間に位置し、南は噴火湾に面し、東は室蘭市及び登別市に、北西には噴煙たなびく有珠山、昭和新山を挟んで洞爺湖町に隣接し、壮瞥町を挟んで大滝地区となっている。



気候は、噴火湾に面しているため、日本海から津軽海峡を通過する対馬海流の影響を受け四季を通じ温暖で初霜は平年 11 月と道内で最も遅く、又、根雪の量は極めて少ないなど積雪寒冷の北海道においては恵まれた気象条件を有していることから「北海道の湘南」と称されている。

#### 伊達市の気象

	最高気温 ( )	最低気温 ( )	平均気温 ( )	最大風速 ( m / s )	平均風速 ( m / s )	日照時間 ( h / 年 )	最深積雪 ( cm )	降水量 ( mm / 年 )
伊達地区	28.7	-13.2	8.9	南東 14.3	2.6	1,788	-	600
大滝区	27.5	-22.5	5.6	北北東 5.0	1.3	1,491	121	1,149

資料：H20年室蘭地方気象台

## 2. 社会的条件

### 沿革

本市の開拓は、明治3年（西暦1870年）仙台藩一門巨理領主伊達邦成とその家臣たちの自費による集団移住という他に類例を見ない独特の形態で行われており、北海道の中においては古い歴史と伝統文化を持つまちとして知られている。

明治33年に稀府、黄金薬、東紋龍、西紋龍、長流、有珠の6か村を合併し「伊達村」となり、大正14年の町制施行を経て、昭和47年に道内32番目となる市制を施行した。

平成18年3月に大滝村を編入合併し、新「伊達市」が誕生し、人口37,619人となった。

### 人口・世帯数

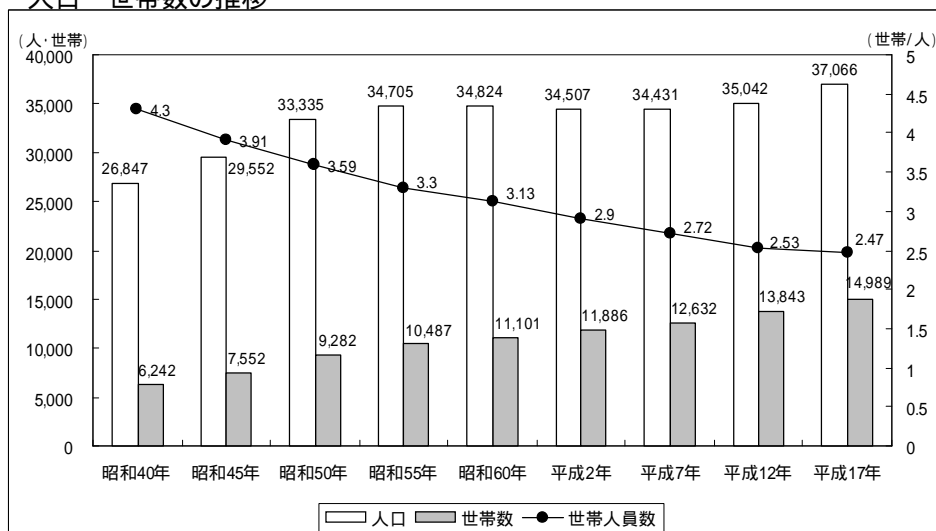
旧伊達市と旧大滝村の人口は、昭和60年以降、ほぼ横ばいで推移しており、平成17年の国勢調査では、14,989世帯、37,066人、世帯人員は2.47人、平成18年の合併時点では、16,961世帯、37,639人、世帯人員2.22人となっており、世帯数が増加する一方、世帯人員が減少する傾向を示している。

人口動態は、周辺市町村からの流入に加え、恵まれた気候風土を反映して道内外各地から移住する人が多い一方、若年層の都市部への人口流出が続いている。

年齢構成をみると、年少人口（0～14歳）は、平成7年では15.1%、平成12年では13.1%、平成17年では12.5%と、出生率の低下により漸次低下してきている。また老年人口（65歳以上）は、平成7年では18.6%、平成12年では22.6%、平成17年では27.0%と急速に増加してきており、全道平均22.4%、全国平均の21.2%を上回っており、高齢化の動きが目立ってきている。

また、コーホート要因法によると、平成27年の将来人口は35,853人と推計されている。

人口・世帯数の推移

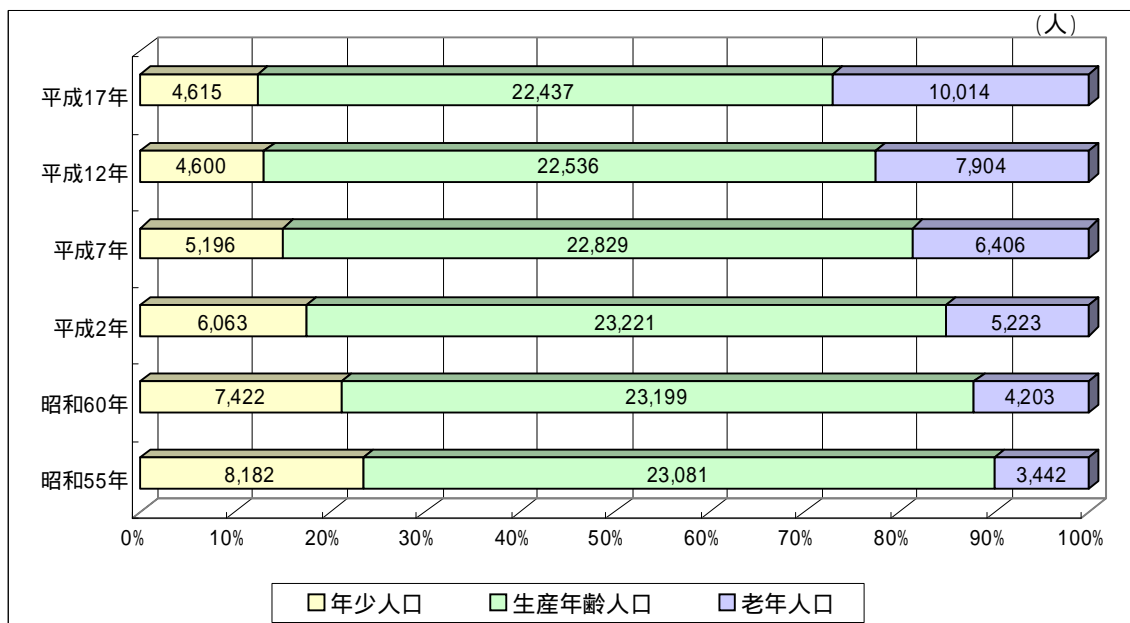


資料：国勢調査

### 年齢構成別人口

年齢構成別人口は、全国的な少子・高齢化の傾向のもと、本市においても同様に年少人口は年々減少し、老年人口は年々増加している。平成7年と平成17年からの10年間の高齢化率（65歳以上人口の比率）を比較すると、18.6%から27.0%へと約8.4%も上昇している。

#### 年齢構成別人口の推移

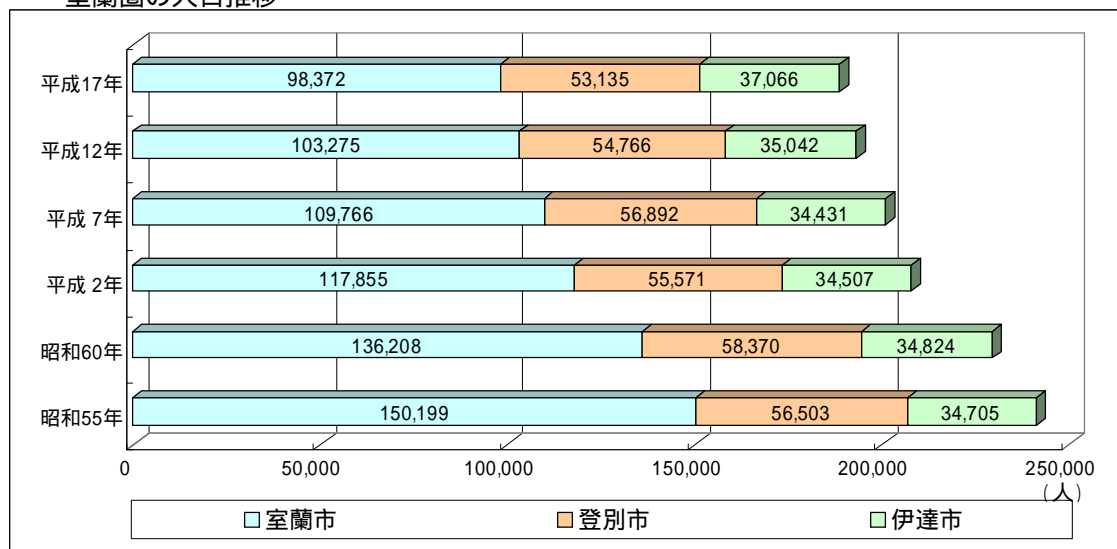


資料：国勢調査

### 室蘭圏の人口推移

室蘭圏都市計画区域は、本市と近隣2市（室蘭市・登別市）とで構成されており、圏域の人口推移は、近年の社会経済構造の変化などの影響に大きく左右され、全体として減少傾向を示している。

#### 室蘭圏の人口推移



資料：国勢調査

産 業

本市の産業別就業者数は、平成17年の国勢調査で見ると、第1次産業が1,797人(10.8%)、第2次産業が3,038人(18.3%)、第3次産業が11,754人(70.9%)となっており、全道と比較すると第1次産業の比率が高くなっている。

第1次産業と第2次産業は減少傾向、第3次産業については増加傾向が見られる。

産業別就業者数

単位:人、%

区 分	平成7年		平成12年		平成17年		
		割合		割合		割合	
就業者総数	伊達市計	17,530	100.0	16,942	100.0	16,589	100.0
	旧伊達市	16,599	100.0	16,189	100.0	15,838	100.0
	大滝区	931	100.0	753	100.0	751	100.0
	全道	2,791,457	100.0	2,701,856	100.0	2,553,400	100.0
第1次産業	伊達市計	2,282	13.0	1,937	11.4	1,797	10.8
	旧伊達市	2,138	12.9	1,822	11.2	1,687	10.6
	大滝区	144	15.5	115	15.3	110	14.6
	全道	251,434	9.0	217,908	8.1	200,822	7.9
第2次産業	伊達市計	4,207	24.0	3,641	21.5	3,038	18.3
	旧伊達市	3,959	23.9	3,575	22.1	2,988	18.9
	大滝区	248	26.7	66	8.7	50	6.7
	全道	658,540	23.6	602,859	22.3	495,496	19.4
第3次産業	伊達市計	11,041	63.0	11,364	67.1	11,754	70.9
	旧伊達市	10,502	63.2	10,792	66.7	11,163	70.5
	大滝区	539	57.8	572	76.0	591	78.7
	全道	1,881,483	67.4	1,881,089	69.6	1,857,082	72.7

(資料:国勢調査)

農 業

本市の農業は、明治初期の開拓以来、先進諸国の知識、技術の先駆的導入によって寒地農業の確立を図り、模範農業として本道初期開拓の進展に大きく貢献した。こうした開拓百三十年余の歴史を背景に、恵まれた気象条件、土壌条件、地理的条件を生かして都市近郊型農業を確立し、野菜を中心に畑作、水稲、酪農、花きなど多角的な複合経営を展開している。

特に野菜は約70種の栽培品目があって本市の農業の中心をなし、ハクサイ、ネギ、キャベツなどは全道有数の生産量を誇っており、道央圏への野菜供給基地として大きな役割を果たしているほか、「伊達野菜」の市場開拓と銘柄確立を目指し、首都圏市場への計画出荷も進められている。

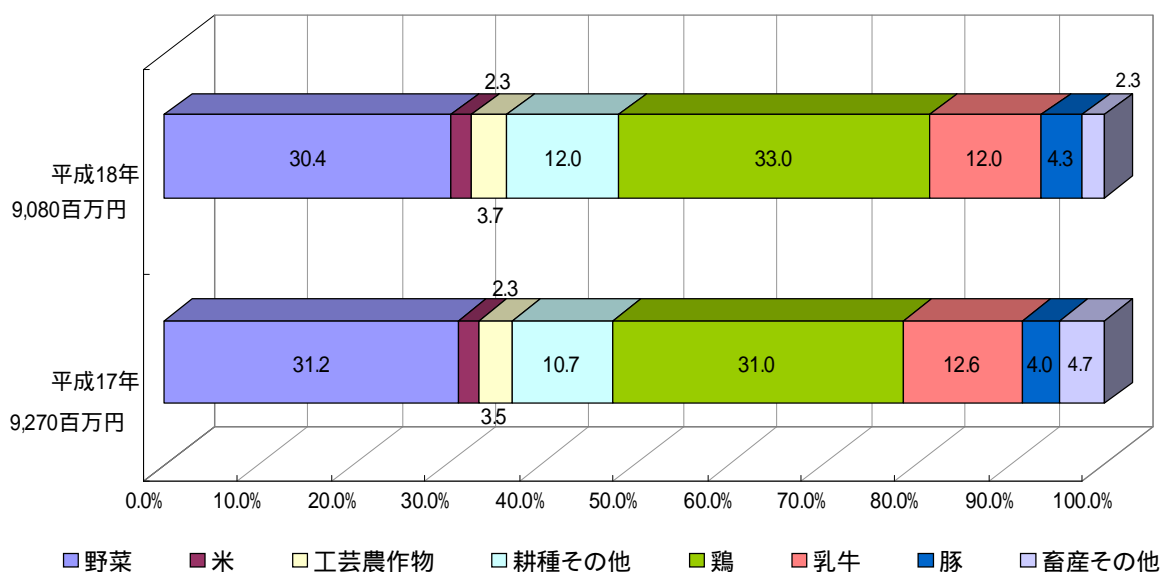
また良質・安全な農産物を消費地に安定供給するため、有機物資源の堆肥化による地域循環型のクリーン農業を推進するための中核施設として伊達市堆肥センターの本格稼働や、高齢化・コスト低減に対応したコントラクター制度の導入、農業生産法人の育成などの取り組みが行われている。

農業の推移

区分	農家数			耕地面積	田	畑	粗生産額	
	専業	兼業	自給的農家					
平成12年	641戸	283戸	285戸	73戸	3,867 ha	467 ha	3,390 ha	9,420 百万円
平成17年	608戸	280戸	238戸	90戸	3,919 ha	431 ha	3,476 ha	9,270 百万円

(世界農林業センサス、農林水産統計年報)

種類別農業生産額の構成費



林業(大滝区)

総面積のうち森林面積が88%、24,209haを占め、そのうち国有林が62%の14,954ha、民有林は38%の9,255haとなっており、天然林はカラマツ、トドマツを中心とした二次林、人工林はその大半が育成途上の森林となっている。

近年、不在地主の増加、輸入木材の増加などによる木材価格の長期低迷、就業者の減少・高齢化などにより林業や林業経営を取り巻く状況は厳しい環境におかれていることから、間伐材を加工したベレットの生産など販路拡大のため、新たな取り組みが行われている。

### 水産業

本市の水産業は、噴火湾養殖漁業の要所にあり、ホタテ貝などの貝類を主体とした養殖漁業で発展してきました。また、サケの増殖事業ではふ化放流技術向上のため、黄金・関内地区に伊達さけ・ますふ化場を設置し、サケの安定的な回帰を図っている。

伊達市温水養殖センターでは、地元漁民の要望が強いナマコの資源増大を図るため、人工種苗生産技術の研究に取り組んでいる。育てる漁業を推進するため、北海道栽培漁業伊達センターが完成し、平成18年度よりえりも町から函館市にかけての海域で100万尾のマツカワの種苗が放流されている。

本市には、いぶり噴火湾漁業協同組合の伊達支所、有珠支所があり、伊達市街沿岸の伊達漁港及び恵まれた入江となっている有珠湾をそれぞれ核として前浜漁業が営まれているほか、伊達漁港が平成21年度に完成予定であり、今後は作業の効率化や近代化が期待されている。

### 水産業の推移

区分	漁家数 (戸)	従業員数 (人)	動力漁船数 (隻)	漁獲高数 (t)	水揚げ高 (百万円)
平成15年	121	148	279	7,443	1,005
平成16年	111	138	265	6,258	1,109
平成17年	101	129	251	5,547	1,267
平成18年	101	131	247	6,109	1,188
平成19年	102	134	245	6,133	1,243

(資料:市商工観光水産課)

## 工 業

本市では古くは明治初期から農村工業が盛んで、道央地区新産業都市の指定に伴って工業が活発化し、現在では地域で生産される農産物を加工する食料品工業を中心に発達してきているほか、コンクリート製品製造などが産業の重要な一翼を担っている。

市内には、北海道縦貫自動車道伊達インターチェンジに隣接する松ヶ枝地区中小企業団地（分譲済み）及び現在分譲中の伊達長和工業団地（工業専用地域）の2つの工業団地がある。

また、伊達長和工業団地の隣接地には、北海道電力(株)伊達発電所があり、すでに数社の企業が立地操業しており、今後も引き続き企業誘致を進める予定である。

また、有珠山噴火の際の避難道路として道道南黄金長和線（長和～館山下間）が平成18年3月に開通したことにより、国道からのアクセスが向上したことから、今後の企業立地が期待されている。

### 工業の推移

区 分	事業所数	従業者数	工業出荷額等
平成 9年	44 件	1,025 人	16,333 百万円
平成10年	41 件	1,016 人	16,685 百万円
平成11年	41 件	956 人	16,427 百万円
平成12年	39 件	919 人	14,146 百万円
平成13年	37 件	925 人	13,730 百万円
平成14年	36 件	887 人	14,180 百万円
平成15年	41 件	929 人	14,750 百万円
平成16年	33 件	856 人	16,419 百万円
平成17年	32 件	825 人	17,101 百万円
平成18年	30 件	580 人	14,541 百万円
平成19年	34 件	653 人	15,807 百万円

資料：工業統計調査、市商工観光水産課

数値は従業者4人以上の事業所

旧大滝村については、秘密保持のため公表されていない数字が多いため掲載しない。

## 商 業

本市の商業は、胆振西部を商圈とし、購買力吸引型広域商業ゾーンとして発展してきており、網代町、市役所通りを中心として鹿島・大町・錦町、駅前に商店街が形成されている。

しかし、近年大型店の進出等により古くからの商店街には空き店舗が目立ってきている。

国道沿いにはかつてロードサイドショップとして自動車販売店、ガソリンスタンドや大型のスーパーマーケットなどが立地していたが、近年はコンビニエンスストアや各種専門店の立地により、新たな商店街を形成している。

中心市街地は、古くから商店や住宅が集積しており、いろいろな機能を培ってきた「街の顔」である。この「街の顔」の活性化のため「伊達市中心市街地活性化基本計画」「伊達市 TMO 構想」に基づいて、本市・TMO(まちづくり機関)である商工会議所・商店街・地域住民が協働で元気あふれるまちづくりを進めている。

### 商業の推移

区 分	商店数	従業者数	商品販売額	1店当たり販売額
平成 3年	492 店	2,635 人	61,636 百万円	12,528 万円
平成 6年	447 店	2,926 人	67,442 百万円	15,088 万円
平成 9年	427 店	2,709 人	71,503 百万円	16,745 万円
平成11年	439 店	3,071 人	69,375 百万円	15,803 万円
平成14年	429 店	3,018 人	61,220 百万円	14,270 万円
平成16年	405 店	2,781 人	60,527 百万円	14,945 万円
平成19年	398 店	2,831 人	50,711 百万円	12,742 万円

資料：商業統計調査

旧大滝村については、秘密保持のため公表されていない数字が多いため掲載しない。



## 観 光

本市は、武士の集団移住により開拓され、北海道内でも固有の歴史を持つまちである。

縄文遺跡も数多く出土され史跡に指定されている北黄金貝塚や有珠善光寺、伊達市開拓記念館など歴史探勝地として注目されている。

武士による開拓の歴史と伝統を象徴する勇壮な騎馬武者による「伊達武者まつり」、地域特産の物産・味覚まつりである「有珠磯まつり」、「だて物産まつり」などのイベントが開催されている。

また北海道の早春を飾るスポーツイベントとして、近年 2,000 人を超えるランナーが市内を駆け抜ける春の合宿村まつり「春一番伊達ハーフマラソン大会」は、今年で 22 回目となり、道内屈指のマラソン大会に位置づけられてきている。

登別、洞爺の二大温泉地の間に位置していることから、いわゆる通過型観光地として発展してきているが、近年は「黎明観」や「宮尾登美子文学記念館」を中心とする道の駅「だて歴史の杜」や「史跡北黄金貝塚公園」などの文化・体験型観光を推進している。

### 【大滝区】

支笏洞爺国立公園の中心部に位置する大滝区は、道央圏と道南圏の観光エリアを結びつける好地域性を有しており、湯量豊富な「北湯沢温泉郷」を中核に、「ホロホロ山自然休養林」、「景勝三階滝公園」などを擁し、札幌市、千歳市、室蘭市などの道内主要都市と胆振、石狩、後志各支庁にまたがる観光圏域となっている。

また、1,000 人以上宿泊可能な大型ホテルが 2 施設あり、収容人数も 3,000 人を超え、観光客の受け入れ体制も向上してきている。

大滝区の変化に富んだ丘陵や森は絶好のクロスカントリーコースになることから、国内外から愛好者が 1,000 人以上参加する「おおたき国際スキーマラソン大会」やフィンランド生まれでポール（ストック）を使って丘陵地や山、平坦なコースを歩く「おおたき国際ノルディックウォーキング」などが開催されている。

平成 20 年度 期別観光客入込数

(単位=千人、%)

区分		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	H20計	H19計	対前年比
伊達市計	入込総数	483.7	653.5	505.3	430.0	2,072.5	1,878.8	110.3%
	日帰客	429.0	575.2	426.2	353.0	1,783.4	1,546.7	115.3%
	宿泊客	54.7	78.3	79.1	77.0	289.1	322.1	89.8%
うち大滝区	入込総数	187.5	260.5	284.1	310.3	1,042.4	1,039.9	100.2%
	日帰客	141.6	190.5	211.7	238.3	782.1	735.6	106.3%
	宿泊客	45.9	70.0	72.4	72.0	260.3	304.3	85.5%

資料：市商工観光水産課